

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた題材構想〈図画工作〉

特別研修員 図画工作 養田 智絵（小学校教諭）

題材名 『物語の世界を版画で表そう』（第3学年） 全9時間計画

題材のねらい

物語から感じたことや想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考えることができるようにする。

題材構想の意図

本題材では、物語を読んで想像した世界を、凹凸のある材料を生かした紙版画に表す活動を通して、形や材料などを工夫することができるようにしたいと考えました。そのため、「出会う」過程では、物語との出会い方を大切にします。「試す・広げる」過程では、凹凸のある材料を用いると模様が表せることを確かめる活動に取り組みせ、凹凸のある材料を生かした紙版画への関心を高めます。「つくる・表す」過程では、材料・表現方法の気づきを伝え合う自然な交流の場を意図的に設け、試行錯誤と自己決定を繰り返しながら表す活動を楽しませます。「振り返る」過程では、互いの作品を紙芝居として鑑賞し、物語の世界観を味わい題材全体を振り返ることで学びが深まるようにしました。



過程

主な学習活動

1. 活動への見通しをもつ

- 「にじいろのさかな」を聞き、感じたことなどを話し合う。
- 凹凸のある材料を生かした紙版画で表すことを知り、題材のめあてをつかむ。



読み聞かせの様子

題材のめあて でこぼこを生かして、物語の世界を紙版画で表そう！

物語のイメージをもたせる

挿絵を見せずに読み聞かせをすることで、物語からイメージした生き物や様子を話し合いで言語化できるようにする。

めあてをつかみ、活動の見通しをもたせる

材料や表現の特徴を踏まえためあてを児童とのやり取りを通して設定することにより、材料・表現方法などへの関心を高め、活動の見通しをもつことができるようにする。

出会う(1)

2. 表したいことを発想・構想する

- こすり出しの技法で教室内の模様を探し、凹凸のある材料を用いると模様が表せることを確かめ、面白さに気付く。
- 物語を聞き、ワークシートを使用してイメージを整理し、生き物や場面の様子を簡単なスケッチに表す。



こすり出しの様子

題材への興味を高める

凹凸のある材料を用いると模様が表せることを確かめる活動の時間をしっかり取ることにより、活動の見通しをもたせ題材の表現への興味を高める。

試す・広げる(1)

3. 形や色、材料などを生かして製作する

- 材料を組み合わせて生き物を表したり、生き物の版の部品を操作して構図を考えたりして版をつくる。
- 版の完成後、模様が表れるよう刷り方を工夫して刷る。



どうぞボックス



のびのびと床で作業



自然に生まれる交流

材料から発想を広げる

集めた材料を自由に使えるようにした「どうぞボックス」など、児童が自然に集まる場を意図的に設定することにより、多様な材料に触れるとともに、友達との交流を通して発想が広げられるようにする。

表す(6)

試行錯誤を促し自己決定へと導く

教師が積極的に製作環境を整え、製作に取り組む様子を称賛・紹介することにより、児童の自然な交流を生み出しながら発想を広げ、一人一人の試行錯誤を促し自己決定へと導く。

4. 作品を鑑賞し表現活動を振り返る

- 裏に物語の文面を貼って紙芝居にし、紹介し合う。
- 感想をうろこ型の紙に書いて交換し、よさを認め合う。
- 製作を通しての感想も記入し完成を喜び合う。



紙芝居読み聞かせ



感想を交換



感想を共有

できたこと、分かったことを実感させる

作品の出来映えや工夫点、表し方の変化などについて感じたことや考えたことなどを話し合う場を設定することにより、見方や感じ方を広げ、できたこと、分かったことを実感させるようにする。

振り返る(1)

自分の思い描いた世界のよさを認め合う

紙芝居として表現する活動により、作品だけではなく、作品として表現した「自分の思い描いた世界のよさ」を互いに認め合えるようにする。

指導のポイント

指導例：『物語の世界を版画で表そう』（第3学年 第1時）

1 活動への見通しをもつ。

○「にじいろのさかな」の読み聞かせを聞き、物語と出会う。

- T：どんな生き物が出てきたかな？
- S：にじうお、たこ、小さな青いさかな…
- S：お話から、ほかに生き物はイメージした？
- S：ジンベイザメ、くらげ、海藻…
- S：にじいろのうろこを渡す場面が好きだよ。



♡このお話、おもしろい！ → 「表してみたい、描いてみたい！」

○白黒の紙版画で表現することを知る。

- S：にじいろのさかなを白黒で？どうすればいいの？

○凹凸のある用紙を受け取り、見たり触ったりする。

- T：先生からみんなににじいろのうろこをプレゼントするよ！
- S：この紙、でこぼこがある！分かったぞ！
- S：でこぼこがにじいろにできるんだ！

題材のめあて でこぼこを生かして、物語の世界を紙版画で表そう！

2 材料や用具と関わり合いながら、発想・構想する。

○凹凸のある材料で表せる模様を確かめるための、こすり出しの技法を知る。

- S：すごい！模様が浮き出てきたよ。
- S：でこぼこの紙を使えば、きっと版画でもにじいろのうろこができるよ！

○教室を自由に歩き回り、使用してみたい材料や、様々な場所や物の模様を紙に写し取ることで、様々な材質の面白さを確かめる。

♡この材料、おもしろい！ → 「表してみたい、描いてみたい！」



- T：何を写したの？
- T：上履きの裏！
- T：いいねえ、すてき。どの部分に使いそう？
- S：この模様は、たこの吸盤にも使いそうだよ。
- T：たこの吸盤！なるほど、よく気付いたね！

3 活動を振り返る。

○活動を振り返るとともに、材料を実際に刷った比較見本を見て、材料として使いそうな物の特徴を確かめ、材料集めへの見通しをもつ。

♡この題材、おもしろい！ → 「表してみたい、描いてみたい！」



材料と刷り上がりの比較見本



友だちと意思を共有



材料に触れてイメージをもつ

物語との出会わせ方を工夫し、話し合いでイメージをもたせる

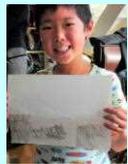
○物語絵では、挿絵を見せずに読み聞かせをするなどの工夫が必要になる。物語からイメージした児童一人一人の世界観を、話し合いを通して引き出し、イメージを持続させる。

材料との出会いを丁寧に演出し、興味をもたせる

○材料との出会い方を大切にする。材料を単に配るのではなく、物語により引き込む演出を教師が工夫する。ここでは、物語になぞらえ、教師が「にじうお」役を演じ、材料のセットを「にじいろのうろこ」として配付する。

題材への興味を高める

○経験の少ない児童が、表したいことに応じて材料を選ぶことができるようにするために、材料の感じや特徴を実感できるような活動を設定する。



「表してみたい、描いてみたい」意欲を強くもたせ、持続させる

○長期間にわたる題材では、意欲の持続が大切になる。大まかな製作の順序や材料、用具をしっかりと確認し、見通しをもたせる。

指導例：『物語の世界を版画で表そう』（第3学年 第3・4時）

1 本時のめあてをつかむ。

- 集めた材料について紹介し合い、表したい場面を伝え合う。
- 製作の予定を確認する。

本時のめあて でこぼこをくふうして かた紙をつくろう！

2 表現活動に取り組む。

- 表したい場面を表現するために使用したい材料を決める。

♡この材料、おもしろい！



それいいね、どこに使うの？

これはにじうおに使いそう！

それ、僕も使ってみようかな



交流から生まれる試行錯誤

材料を自己決定

♡こうしたい！そのためには…？

- 材料を組み合わせて、生き物を版に表す。



生き物を表した版の部品

- 生き物を表した版の部品を操作して、構図を考えて版に表す。



動かしながら画面構成

- 構図決定後、台紙に接着する。

- 様々な手法を用いた児童や動きを工夫した児童の作品を見たり、紹介を聞きいたりして、工夫した表し方を共有する。



構図決定後に接着

♡分かった！できた！おもしろい！

3 本時のまとめと振り返りをする。

- 表したいことを表現するのにふさわしい構図となっているかを振り返り、次時の製作を確認する。



小さな魚にうろこを渡す版



みんながにじいろになり海を泳ぐ版

指導のポイント

製作予定と注意事項を可視化する

- 児童が製作の見通しをしっかりとめるよう、「つくる・表す」過程では、製作予定と注意事項は、毎時掲示物や板書に表して可視化する。

材料コーナーで発想を広げる

- 材料を見て発想を広げられるよう、余る材料や使用しない材料は教室内の「どうぞボックス」に集め、児童が自然に集まる場を設定する。

児童の自己決定を後押しする個別指導をする

- 自分の表現に自信をもたせ自己決定へ導くため、一人一人の表現のよさを具体的に称賛する。

製作環境を整える

- 手や体全体の感覚を働かせて活動に取り組むことができるよう、床などの広いスペースを使用してよいことを伝える。

表したいことを製作途中で児童が確認できる方法を提案する

- 版に表す際には、模様を確かめながら表したいことに合った材料を見付けられるよう、こすり出しの技法で確かめることを提案する。

ミニ鑑賞会で振り返らせる

- 製作途中でも、「ミニ鑑賞会」を行うなど、視野を広げたり考えを深めたりできる機会を設定する。

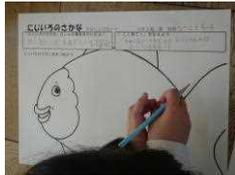
指導例：『物語の世界を版画で表そう』（第3学年 第9時）

指導のポイント

1 本時のめあてをつかむ。

- 事前に、自分が表現した場面に該当する絵本の文面を作品裏に貼り付け紙芝居にする。
- ワークシートに、自分がしたこと、できたこと、工夫したことを作品の「ここ見て！ポイント」として記入する。
- 鑑賞会の約束を知る。

がんばったよ、ここ見て！



にじうお型のワークシート

全部のさかなに
にじいろのうろこがあるよ

みんな笑っているんだよ！



ポイントを記入する様子

本時のめあて 「にじいろのさかな」かんしょう会をしよう

2 作品を紙芝居にし、鑑賞し合う。

- ワークシートに記入した「ここ見て！ポイント」を伝え合い、グループで互いに紙芝居を読み聞かせる。
- 読み聞かせを聞いたら、にじいろのうろこに見立てたカードに感想を書いて渡す。もらったカードは、ワークシートに貼り付ける。

がんばったね、すてきだね！



ここ見てポイントの説明の様子

なるほど！すごいね！

ここ見てポイントを
ほめてもらえたよ



もらった感想を貼り付ける様子

- 学級全体で円形になり、教師の読み聞かせに合わせ場面該当児童は作品を掲げる。

このお話、大好き！

3 表現途中に気付いたことやできるようになったことを振り返る。

- 担任からも、メッセージを書いたにじいろのうろこカードをもらい、各自ワークシートに貼り付ける。
- 表現を通して、気付いたことやできるようになったことをうろこに見立てたカードに記入し、拡大したにじうおに貼り付け、作品とともに展示する。

この題材、楽しかった！



全員の感想を貼ったにじうお



感想カード



完成作品

児童の「できた！」「ここ見て！」をしっかりと引き出す

○したこと、できたこと、感じたこと、気付いたことなどを肯定的に記入できるよう、作品の出来映えだけでなく思いを記入するよう声掛けをする。

交流しやすい環境をつくる

○児童がリラックスして互いの作品を見合い、自由に発言しやすいよう、読み聞かせの時以外は、自由につぶやき話し合っよいことを伝える。

鑑賞し合う姿を丁寧に見取る

○その場で生まれる感嘆、称賛、疑問などを丁寧に見取ることができるよう、鑑賞会では、ワークシートからだけでなく、児童のつぶやきを大切にす。

思いの共有の時間を設定する

○完成の達成感と完成の喜びを十分に味わうことができるよう、全体での相互鑑賞の時間を設定する。

題材を通してできるようになったことを振り返らせる

○活動を通して変容したことを実感できるよう、発達の段階に応じた形で、作品を通してしたこと、できたこと、感じたこと、気付いたことなどを個人や全体で振り返る場を設定する。

図画工作科学習指導案

平成30年10月～11月（木）第3学年 指導者 養田 智絵

I 題材名 「物語の世界を版画で表そう」

II 学習指導要領上の位置付け

A 表現

- (1) イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。
- (2) イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいこと合わせて表し方を工夫して表すこと。

B 鑑賞

- (1) ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

[共通事項]

- (1) ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

III 目標

物語を基に場面の様子について想像を膨らませて、主人公と周りの様子、凹凸のある材料の生かし方を工夫し、版のつくり方や刷り方を工夫して絵に表すことができる。

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1／9）

- ねらい 物語「にじいろのさかな」の読み聞かせを聞き、興味をもった生き物や周りの様子、場面の様子などについて話し合い、模様探しをすることを通して、物語の世界を凹凸を生かした版表現で表すことへの意欲をもたせる。

2 展開

学習活動（分） ○：留意点 点線囲：評価 ☆：振り返りの子供の意識

1 「にじいろのさかな」の読み聞かせを聞き、物語と出会う。（15分）

- 「にじいろのさかな」を読み聞かせ、興味をもった海の生き物や周りの様子、出来事などを発表するよう促し、物語及び登場する海の生き物を板書して整理する。
- 凹凸を生かした版画を用いて作成した題材名をフラッシュカードで示し、凹凸のある材料を生かした紙版画で物語の世界を表すことを提案する。

題材のめあて でこぼこを生かして、物語の世界を紙版画で表そう！

2 こすり出しの技法を知り、教室の様々な場所や物の模様を紙に写し取り模様の美しさや面白さに気付く。（25分）

- 書画カメラ、黒板掲示の模造紙で示範し、こすり出しの技法を紹介する。
- 安全に活動するためのルールを確認する。
- 教室を自由に歩き回り、様々な場所や物の凹凸を紙に写し取るよう促す。
- 活動中様々な模様を写し取った児童の多様な表現や想いを積極的に紹介・称賛する。
- 機を見て海の生き物型に切り取った凹凸のある材料の資料を壁面に掲示する。

様々な場所や物の凹凸を探して繰り返しこすり出しに取り組んだり、面白い模様を見付けたりしている。 <観察（1）>

3 本時のまとめ・振り返りをする。（5分）

- 本時に見つけた面白かった場面の様子を板書で確認するとともに、本時の学習の具体的なエピソードを紹介する。
- 版に用いる凹凸のある材料と現れる模様の資料を見比べさせ、材料と刷り上がりに関連付けさせる。

☆にじうおが、虹色のうろこを渡す場面が好きだよ。でこぼこのできる模様で表すんだね。写すって面白いな！いろいろな材料を集めるぞ。

V 本時の展開（4／9）

- ねらい 表したいこと、登場する生き物たちを表した版を動かして配置を考える活動を通して、表したいことを生かす動きや構図を工夫できる。
- 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 活動の見通しをもつ。（10分） ○登場する生き物を表した模型を黒板で動かし、向きや配置、生き物の大小によって表したいことがより伝わる作品になることを示す。 めあて 表したいことが生き生きと動くように、くふうしてはんをつくらう			
2 材料を組み合わせる生き物を表したり、生き物を操作して構図を考えたりして版をつくる。（30分） ○安全に活動するためのルールを確認する。 ○全員が自由に使用できる「どうぞボックス」に、持ち寄った材料を入れさせ、教室内に設置する。 ※ 使用したい材料が決まったら、貼り付け台紙に下描きはせずに生き物の版をつくる。表したいことを生かすための動きや構図を、版を操作しながら試行錯誤し、決定後ボンドで台紙に貼り付ける。 ○紙とプラスチック、紙とビニルが接着可能なボンドを使用させる。 ○こすり出しの技法で随時版を確かめながら表すよう伝える。 ○様々な手法を用いた児童や動きを工夫した児童のよさを随時紹介・称賛する。 材料のできる模様をこすり出しの技法で繰り返し確かめている。 <観察（1）> 材料の組合せや版の配置を変えながら、構図を工夫している。 <観察（2）>			
4 本時のまとめ・振り返りをする。（5分） ○表したいことが生き生きと描かれた構図となっているかを振り返るよう促す。 ○次時の製作の確認をする。 ☆プチプチシートでうろこの感じにしたよ。にじゅうおを斜めにして、泳いでる感じがでたよ。			

V 本時の展開（9／9）

- ねらい グループで場面を読み聞かせし合う活動を通して、互いの表現のよさや工夫を味わうことができる。
- 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 活動の見通しをもつ。（5分）	○表現した場面に該当する絵本の文面を、事前に紙芝居のように作品裏に貼り付けさせておく。 ○鑑賞会の約束を確認する。		
めあて 「にじいろのさかな かんしょう会」をしよう			
2 作品の裏に物語の文面を貼って紙芝居にし、グループで紹介し合う。（25分）	○友達の見聞かせを聞いた感想を、うろこ型カードに書くよう促す。 ○もらったうろこは各自魚型ワークシートに貼り付けるよう指示する。 ○全員で円形になり、教師の見聞かせに合わせて場面に該当する児童は作品を掲げ、全員で作品を見せ合うよう提案する。		
友達の作品を見て、テクスチャーの面白さと表したいことを関わらせて工夫を見付けている。 <観察・鑑賞カード（4）>			
3 表現途中に気付いたことやできるようになったことを振り返る。（15分）	○鑑賞会を通して、気が付いたことやよかったことを発表し交流し合うよう促す。 ○「にじいろのうろこ」に見立てたカードを全員に配付し、ワークシートに貼り付けるよう指示する。 ○製作した感想を、「にじいろのうろこ」に見立てたカードに記入し、模造紙大の学級のうろこに貼るよう促す。		
☆みんなたくさん工夫してすごいな。模様がきれいに出てにじいろの世界が表せた。教室が海の中みたいだね。			

指導計画 図画工作科 第3学年 題材名「物語の世界を版画で表そう」(全9時間計画)

目標	物語を基に場面の様子について想像を膨らませて、主人公と周りの様子、凹凸のある材料の生かし方を工夫し、版のつくり方や刷り方を工夫して絵に表すことができる。			
評価規準	(1) 物語を聞いて想像したことを、材料のもつよさや面白さなどを生かして版表現に表すことに興味をもち、表現に意欲的に取り組んでいる。 (2) 物語を基に場面の様子について想像を膨らませて、主人公と周りの様子を工夫したり、刷り上がりを想像して凹凸のある材料の生かし方を工夫したりしている。 (3) 身近な材料から、思い付いた方法を試したり、その形を生かして写したりして表し方を工夫している。 (4) 凹凸のある材料によって表れる模様の面白さと表したいことを関わらせて、よさや面白さを感じ取っている。			
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り (意識)	◇評価項目 〈方法 (観点)〉
出会う	1	○「にじいろのさかな」を聞き、興味をもった海の生き物や周りの様子、出来事などを話し合い、様々な海の生き物や物語の世界をイメージさせる。 ○紙版画で物語の世界を表すことを知り、凹凸によってできる模様を生かしてにじいろの世界を表現することに興味をもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">題材のめあて でこぼこで、物語の世界をつくろう！</div>	☆にじうおがにじいろのうろこを渡す場面が好き。周りに生き物が集まるんだね。 ☆でこぼこがあれば、色がなくても、虹色の魚ができそうだよ！	
試す・広げる		○こすり出しの技法を知り、教室の様々な場所や物の模様を紙に写し取る活動を通して、様々な模様の美しさや面白さに気付かせる。 ○活動を振り返らせるとともに次時よりアイデアスケッチに入ることを知らせ、版に用いる凹凸のある材料と刷ることで表れる模様を資料を見比べることで、材料と刷り上がりに関連付けさせる。 ・刷り上がりの美しさや面白さを想像して材料集めに取り組む意欲を高める。	☆材料を工夫するといろいろな模様ができそうだよ。 ☆段ボールが使えるそうだよ。他にどんな材料を使おうかな。楽しみだな。	◇様々な場所や物の凹凸を探して繰り返しこすり出しに取り組んだり、面白い模様を見付けたりしている。 〈観察(1)〉
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本時のめあて にじうおの世界をイメージして、かきたい場面を決定しよう</div> ○物語を聞き、ワークシートを使用してイメージを整理してアイデアスケッチに表す活動を通して、表したい場面の様子や海の生き物についてイメージを明確化させる。	☆うろこを配ってみんなが虹色になった世界が描きたいな。背景や、にじうお以外の生き物はどう表そうかな？	◇海の生き物と周りの様子を工夫し、表したい場面の様子を効果的にアイデアスケッチに表している。 〈観察(1)〉 〈アイデアスケッチ(2)〉
表す	3 〜 6	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本時のめあて でこぼこをくふうして かた紙をつくらう！</div> ○表したいこと、登場する生き物たちを表した版を動かして配置を考える活動を通して、表したいことを生かす動きや構図を工夫させる。 ・材料で自然な交流ができるよう、教室に「どうぞボックス」を設置する。 ○使いたい材料について、随時こすり出しをして確かめ、素材によってどのような効果が生まれているかを捉えて材料の用い方を工夫させる。	☆貼り方を工夫すると、魚が泳いでいる感じが出たよ。 ☆プチプチシートで点々模様が出来るよ。クラゲの体に使ってみよう。	◇材料でできる模様をこすり出しの技法で繰り返し確かめている。 〈観察・作品(2)〉 ◇材料の組合せや版の配置を変えながら、構図を工夫している。 〈観察・作品(2)〉
	7 ・ 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本時のめあて 友だちときょう力してはん画をすろう</div> ○版へのインクの付き具合やスポンジローラーのかけ方によって仕上がりが異なることを知り、版の凹凸の効果が表れる適切な刷り方を工夫させる。 ・模様を生かすことができるよう、ばれんは使用せず、指とタオルで丁寧に刷らせる。	☆インクを少な目にして刷ったら、うろこの虹色の部分が素敵になったよ。	◇刷り上がった表現を確かめ、インクの量やローラーなどの用具の使い方を加減しながら刷り直している。 〈観察・作品(3)〉
振り返る	9	・自分が表現した場面に該当する絵本の文面を、事前に紙芝居の様に作品裏に貼り付けさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本時のめあて 「にじいろのさかな」かんしょう会をしよう</div> ○グループで場面を読み聞かせし合う活動を通して、互いの表現のよさや工夫を味わわせる。 ○うろこ型カードに感想を書き、友達に贈るよう促す。教師からもカードを渡し、各自魚型ワークシートに貼り付けるよう促す。 ○感想は積極的につぶやき合うよう促す。 ○円形になり、教師の読み聞かせに合わせ、場面該当児童は作品を掲げる活動を通して、完成の喜びを共有させる。 ・制作した感想を、うろこ型カードに記入し、拡大したにじうおにうろことして貼り付け、後日作品とともに掲示する。	☆模様や色が工夫されていてすてきだね。 ☆「にじいろのさかな」の世界がたくさんできあがったよ。教室が海の中になったね。	◇友達の作品を見て、テクスチャーの面白さと表したいことを関わらせて工夫を見付けている。 〈観察・鑑賞カード(4)〉